# 主食・主菜・副菜に関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

				調査方		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象数)	研究デ ザイン	主食・主 菜・副菜把 握方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
1	Horikawa Syo, et al (2011)	全国	2008年「教育 ファーム推進事 業」参加者 15歳以上、 769人(男性292 人、女性464人)	横断研 究	質問紙調 査	主食・主菜・副菜の揃った食事「毎食、主食、主菜、副菜のそろった食事を食べるか」	米飯摂取	いずれの年齢階級においても、 主食・主菜・副菜の揃った食事 を毎食食べる人では米飯摂取 傾向が強かった(米飯摂取の調 整オッズ比、10-20歳代2.81 (1.33-5.97); 30-40歳代4.07 (1.93-8.61); 50歳以上2.14 (1.13-4.06))。	BMI 性別 地域	主食・主 菜・副菜の 揃かた長取 15歳以上 の男女
2	會退 友美 (2013)	全国	2009年「食育の現 状と意識に関する 調査」データ二次 利用 20歳以上、 2,936人(男性 1,344人、女性 1,592人)	横断研 究	個別面接 聴取	主食・主菜・副菜の揃った食事回数 「主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか」	食に関する主観的QO L(SDQOL)	男女ともに、毎日、主食・主菜・副菜の揃った食事がある人は、毎日でない人に比べ主観的QOLが18点以上であるオッズが高かった(調整オッズ比、男性1.84(1.43-2.36); 女性1.61(1.29-2.02))。	年齢 就業の有無 婚姻状況 同居の有無 食事制限の有 無 年収 最終学歴	主食・主 菜・副菜の 揃った食事 QOL 食知識 成年男女
3	Koyama Tatuya, et al (2014)	石川県金沢市近郊	自立高齢者 60歳以上、 76人(男性25人、 女性51人)	横断研 究	2日間の食 事記録調 査	主食・主菜・副菜の揃った食事回数 主食・主菜・副菜は食事バランスガイドの定義に基づき定義し、1食で各0.5SV以上摂取している場合を主食・主菜・副菜の揃った食事と定義した。	栄養素摂取量 食品群別摂取量 食事摂取基準(2015 年版)の目標量、推奨 量、推定平均必要量 を下回る摂取	男女ともに、主食・主菜・副菜の 揃った食事回数の多い人ほど、 食塩摂取量が多かったが、女性 では、ビタミンC、食物繊維摂取 量が増加した。また、炭水化物 エネルギー比率が食事摂取基 準の目標量の範囲内の人の割 合が増加した。 女性では、主食・主菜・副菜の 揃った食事回数の多い人ほど、 穀類、特に米、および卵類、菓 子類の摂取量が多かった。	調整なし	主 ・主 ・副 ・副 ・記 ・記 ・記 ・記 ・記 ・記 ・記 ・記 ・記 ・記

				調査方		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象数)	研究デ ザイン	主食・主 菜・副菜把 握方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
4	Kakutani Yuka, et al (2015)	茨神県都県 が 原原 の の の の の の の の の の の の の の の の の	大学生 18-24歳、 664人(男性187 人、女性477人)	横野研	質問紙調	主食・主菜・副菜の揃った食事回数 「週に何回、主食・主菜・副菜の揃った食事を1日に2回以上摂っていますか。」	栄養素摂取量 食品群別摂取量	女性では、主食・主菜・副菜の は、主食・主菜・副菜の となり、 をいたのでは、 をいたのでは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	年齢 BMI - 教 - 教学生 大学生	主菜揃栄摂食摂大・一種の素を、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では
5	Misawa Akemi, et al (2015)	北陸地方	バス運転業務従 事者 平均年齢45.8歳 男性、40名 (健康状態との関 連検討は32人)	横断研 究	構造化インタビュー	主食・主菜・副菜の揃った食事 食事の摂取内容の記録(テキストデータ)をテキストマイニング手法により分析し、主食・主菜・副菜を食事バランスガイドの定義で1SV以上の摂取量である場合、それぞれの出現があると判定した。	身体測定値、血液検 査値	朝食、昼食における、主食・主菜・副菜の揃った食事がある群とない群で、いずれの身体測定値及び血液検査値に統計学的有意な差は認められなかった。夕食における主食・主菜・副菜の揃った食事がある群では、ない群に比べ、拡張期血圧平均値が統計学的有意に低かった(85.1mmHg vs 94.3 mmHg, P=0.047)。	年齢 BMI	主食・主 菜・副菜の 揃った測定 血液検査 血成年男性

				調査方		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象数)	研究デ ザイン	主食・主 菜・副菜把 握方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
6	Koyama Tatsuya, et al (2016)	富山県	INTERMAP Study 参加者 40-59歳、 299人(男性149 人、女性150人)	横断研究	4回の24時 間思い出 し	主食・主菜・副菜の揃った食事回数 主食・主菜・副菜は食事バランスガイドの定義に基づき定義し、1食で各1SV以上摂取している場合を主食・主菜・副菜の揃った食事と定義した。	栄養素摂取量 食事摂取基準(2015 年版)の目標量、推奨 量、推定平均必要量 を下回る摂取のオッズ 比	主食・主菜・副菜の揃った食事回数の多い人ほど、エネルギー、たんぱく質エネルギーし、ナトリウム、カリウム、カルシウム、鉄、チアミン、リボフラビン、ビタミンCの摂取量が多かった(P<0.05)。 主食・主菜・副菜の揃った食事回数が1回未満の人は、1.75-3回の人に比べ、カリウム、カルシウム、ガルウム、カルシウム、ビタミンCの推奨量及び推定平均必要量を満たさないオッズが3.0~5.4倍であった(P<0.05)。	性別年齢	主食・主の・・主の・・主の・・主の・・主の・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7	Kimura Hideki, et al (2017)	新潟県新潟市	新潟市高齢者コ ホートスタディ参 加者 75歳、 338人(男性179 人、女性159人)	横断研究	BDHQ	健康な食事パターン(主食・主菜・副菜の揃った食事)「日本人の長寿を支える「健康な食事」」を参考に、健康な食事パターンを定義した。①主食:(穀類+イモ類+菓子)由来の炭水化物合計120g/日以上かつ②主菜:(魚介類+肉類+卵類+豆類)由来のたんぱく質30g/日以上かつ③副菜:緑黄色野菜+その他の野菜+きのこ類+海藻類の重量300g/日以上	現在歯数20本以上	現在歯数を20本以上有する群は、20本未満の群に比べ、主食・主菜・副菜の揃った食事のオッズ比が1.66(95%信頼区間:1.05-2.61)であった。	性別 喫煙 世帯収入 BMI アルブミン ヘモグロビン A1c	主食・主東・京の東京の一点を主義を主義を主義を表す。

# 食事パターンとがんに関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	/研究 デザ イン	査方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
1	Masaki Motofumi, et al (2003)	東京都とその近郊	JACC研究 の東京地 区参加者 40-69歳、 男性、 5,644人	前き究追期10 の研 い が間年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	5644人の男性勤労者を対象に、26 食品に基づき抽出された食事パターン "野菜・果物パターン"は、キャベツ、レタス、緑の葉野菜、にんじん、柑橘類、その他の果物の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 18%)	胃がん発症	野菜・果物パターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、得点による胃がん発 症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 1.03 (0.60-1.78) 第3三分位 1.00 (0.58-1.74) 傾向性P値 = 0.99	性別 BMI 教育歴 消化性潰瘍既 往がん家族歴 喫煙状況 飲酒状況	食事パターン開がん成年男性
						"欧米朝食パターン"は、パン、バター、チーズ、ハム、ソーセージ、コーヒーの高摂取と米飯、海藻、豆乳、漬物の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 9%)		欧米朝食パターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 第1三分位1.00(基準) 第2三分位0.80(0.47-1.36) 第3三分位0.77(0.46-1.31) 傾向性P値=0.57		
						"肉パターン"は、豚肉、牛肉、鶏肉の高摂取とトマトと他の果物の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 6%)		肉パターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、得点による胃がん発 症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.71 (0.41-1.23) 第3三分位 1.20 (0.72-2.01) 傾向性P値 = 0.17		

番	著者	調査国•	研究対象	調査 <u>方法</u> 研究	食事調	調査項目 - テーマに関連する	アウトカム指標	結果 利点、重要性に関する	共変量の調整	キーワード
番号	(発行年)	地域	者 (年齢層・ 調査対象	デザイン		調査項目	(利点、重要性 に関する調査項 目)	調査結果(関連)	八久至公崎正	, , ,
						"米/スナックパターン"は、米飯、みそ汁、クッキー、オレンジジュースの高摂取と野菜の低摂取に特徴づけられる。(説明率:5%)		米/スナックパターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、得点による胃がん発 症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 第1三分位 1.00(基準) 第2三分位 0.57(0.32-1.03) 第3三分位 1.12(0.68-1.82) 傾向性P値 = 0.07		
2	Kim Mi Kyung, et al (2004)	全国4保健所管内	JPHC コ ホート1参 加者 40-59歳、 42,112人 (男性 20,300人、 女性 21,812人)	前き究追期10年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性20,300人、女性21,812人を対象に、44食品・飲料に基づき男女別に抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、大豆製品、海藻、きのこ類、牛乳、豆類、ヨーグルトの高摂取に特徴づけられる。	胃がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男性では得点による胃がん発症リスクに差は見られなかったものの、女性では、最も得点が低い群に比べ最も高い群で統計学的有意にリスクが44%低かった。相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位1.00(基準)第2四分位1.00(0.70-1.45)第3四分位1.06(0.74-1.53)第4四分位1.13(0.78-1.63)傾向性P値=0.39女性第1四分位1.00(基準)第2四分位0.57(0.33-0.97)第3四分位0.77(0.47-1.26)第4四分位0.56(0.32-0.96)傾向性P値=0.03	年齢 BMI 総取する 表別 表別 を を を を を を を を の み か の の の の の の の の の の の の の の の の の	食事パターン間がん成年男女

				調査	 調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>方法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
					伝統食パターンは、漬物、塩漬け魚、魚介類、米飯、みそ汁、アルコール(男性のみ)の高摂取とパンとバターの低摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群は、統計学的有意に男性では2.9倍、女性では2.4倍リスクが高かった。 相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位1.00(基準)第2四分位1.97(1.25-3.12)第3四分位2.47(1.55-3.94)第4四分位2.88(1.76-4.72)傾向性P値く0.0001女性第1四分位1.00(基準)第2四分位1.70(0.93-3.12)第3四分位1.28(0.68-2.44)第4四分位2.40(1.32-4.35)傾向性P値=0.007		
					欧米食パターンは、肉、鶏肉、チーズ、パン、バターの高摂取に特徴づけられる。		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.99 (0.71-1.37)第3四分位 0.88 (0.63-1.24)第4四分位 0.85 (0.60-1.38)傾向性P値 = 0.45女性 第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.94 (0.56-1.57)第3四分位 0.92 (0.54-1.56)第4四分位 1.13 (0.66-1.93)傾向性P値 = 0.42		

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国· 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
			W) A / 1 / 1			胃がん発症 (differentiated type)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。相対危険度(95%信頼区間) 男性第1四分位 0.91 (0.57-1.45) 第3四分位 0.97 (0.61-1.53) 第4四分位 1.11 (0.70-1.76) 傾向性P値=0.29 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.53 (0.21-1.34) 第3四分位 0.81 (0.35-1.88) 第4四分位 0.62 (0.25-1.54) 傾向性P値=0.31 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群は、統計学的有意に男性では2.7倍リスクが高かった。相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 2.05 (1.16-3.62) 第3四分位 2.37 (1.32-4.28) 第4四分位 2.67 (1.42-5.02) 傾向性P値 <0.0001 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.82 (0.60-5.49) 第3四分位 1.79 (0.60-5.39) 第4四分位 2.40 (0.83-6.97) 傾向性P値=0.06		

				調査 <u>方法</u>	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>77</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 1.07 (0.71-1.62)第3四分位 1.07 (0.70-1.64)第4四分位 0.88 (0.56-1.38)傾向性P値=0.45女性第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.67 (0.26-1.70)第3四分位 1.23 (0.54-2.77)第4四分位 0.86 (0.34-2.22)傾向性P値=0.68		
						胃がん発症 (undifferentiate d type)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男性では得点による胃がん発症リスクに差は見られなかったものの、女性では、最も得点が低い群に比べ最も高い群で統計学的有意にリスクが54%低かった。相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位1.00(基準)第2四分位1.37(0.73-2.58)第3四分位1.10(0.57-2.15)第4四分位1.24(0.64-2.40)傾向性P値=0.71女性第1四分位0.57(0.29-1.15)第3四分位0.79(0.42-1.49)第4四分位0.46(0.22-0.96)傾向性P値=0.04		

				-m- <del></del> -	-m-t		# B		
				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>が</u> 究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
			<b>調宜对</b> 家			日)	伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群は、統計学的有意に男性では4.9倍、女性では2.3倍リスクが高かった。相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位1.00(基準)第2四分位2.50(1.02-6.12)第3四分位3.27(1.32-8.12)第4四分位4.92(1.92-12.6)傾向性P値=0.006女性第1四分位1.00(基準)第2四分位1.32(0.60-2.89)第3四分位1.03(0.45-2.37)第4四分位2.31(1.09-4.89)傾向性P値=0.03 欧米食パターン得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による胃がん発症リスクに養は見られなかった。相対危険度(95%信頼区間)男性第1四分位0.78(0.44-1.37)第3四分位0.78(0.44-1.37)第3四分位0.78(0.44-1.40)傾向性P値=0.96女性第1四分位1.00(基準)第2四分位0.08(0.48-1.93)第3四分位0.87(0.42-1.81)第4四分位1.40(0.70-2.78)傾向性P値=0.30		

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		_
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<del>// 研究</del> デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
3	Kim Mi Kyung, et al (2005)	全国4保健 所管内	JPHC研究 コホート1 参加40-59歳、 42,112人 (男性 20,300人、 女性 21,812人)	前き究追期10年   いままま   いままままます   いままままます   いままままます   いままままます   いままままます   いままままます   いまままます   いまままます   いまままます   いまままます   いまままます   いまままます   いままままます   いまままます   いまままます   いまままます   いまままます   いままままます   いまままます   いままままます   いままままます   いままままます   いままままます   いまままままます   いまままままままままま	食物摄 取頻査 (FFQ)	JPHC コホートI対象者の42112人 (男性20300人、女性21812人を対象 に、44食品・飲料に基づき抽出され た食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、大 豆製品、海藻、きのこ類、牛乳、豆 類、ヨーグルトの高摂取に特徴づけ られる。	大腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による大腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.88 (0.60-1.30) 第3四分位 1.01 (0.69-1.48) 第4四分位 0.81 (0.52-1.24) 傾向性P値=0.80 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.58-1.51) 第3四分位 0.94 (0.58-1.55) 第4四分位 0.98 (0.58-1.65) 傾向性P値=0.82	年BMI 査然ののののののののののののののののののでは、ののでは、ののでは、ののでは、のでは、	食事パター大成年男がんの大成年男女
						伝統食パターンは、漬物、塩漬け魚、魚介類、米飯、みそ汁、アルコール(男性のみ)の高摂取とパンとバターの低摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による 大腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.89 (0.58-1.36) 第3四分位 0.91 (0.58-1.42) 第4四分位 0.88 (0.55-1.42) 傾向性P値=0.70 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.06 (0.64-1.76) 第3四分位 0.96 (0.57-1.63) 第4四分位 1.53 (0.93-2.52) 傾向性P値=0.23		

				調査	 調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>方法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
					欧米食パターンは、肉、鶏肉、チーズ、パン、バターの高摂取に特徴づけられる。		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による大腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間)男性 第1四分位 1.00(基準)第2四分位 0.98(0.67-1.43)第3四分位 0.96(0.65-1.41)第4四分位 0.93(0.62-1.41)傾向性P値=0.85女性 第1四分位 1.00(基準)第2四分位 1.31(0.81-2.12)第3四分位 1.22(0.73-2.03)第4四分位 1.45(0.85-2.48)傾向性P値=0.59		
						結腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 結腸がん発症リスクに差は見られなかっ た。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.97 (0.60-1.54) 第3四分位 1.13 (0.71-1.80) 第4四分位 0.83 (0.49-1.41) 傾向性P値=0.62 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.88 (0.48-1.60) 第3四分位 0.76 (0.39-1.50) 傾向性P値=0.68		

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<del>// 研究</del> デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険		

得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 結腸がん発症リスクに差は見られなかっ

相対危険度(95%信頼区間)

男性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 1.06 (0.63-1.76)

第3四分位 1.01 (0.58-1.76)

第4四分位 1.05 (0.58-1.90)

傾向性P値=0.68

女性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 1.20 (0.63-2.29)

第3四分位 1.04 (0.53-2.05)

第4四分位 2.06 (1.10-3.84)

傾向性P値=0.11

#### 欧米食パターン

得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 結腸がん発症リスクに差は見られなかっ た。

相対危険度(95%信頼区間)

男性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 1.15 (0.72-1.82)

第3四分位 1.11 (0.69-1.79)

第4四分位 1.05 (0.63-1.75)

傾向性P値=0.73

女性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 2.01 (1.07-3.81)

第3四分位 1.80 (0.92-3.52)

第4四分位 2.21 (1.10-4.45)

傾向性P値=0.74

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						近位結腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.73 (0.35-1.52) 第3四分位 0.90 (0.45-1.82) 第4四分位 0.68 (0.32-1.47) 傾向性P値=0.83 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.47 (0.18-1.13) 第3四分位 0.67 (0.29-1.52) 第4四分位 0.47 (0.18-1.23) 傾向性P値=0.96 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.01 (0.39-2.16) 第3四分位 0.91 (0.39-2.16) 第3四分位 1.06 (0.44-2.55) 傾向性P値=0.97 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.17 (0.45-3.07) 第3四分位 0.75 (0.25-2.20) 第4四分位 0.75 (0.25-2.20) 第4四分位 2.07 (0.84-5.12) 傾向性P値=0.20		

				-m <del>*</del>			<i>4</i> + B		
				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間)男性 第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 1.37 (0.67-2.78)第3四分位 1.37 (0.66-2.85)第4四分位 1.17 (0.53-2.56)傾向性P値=0.61女性 第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 1.89 (0.78-4.61)第3四分位 1.62 (0.62-4.20)第4四分位 1.66 (0.60-4.64)傾向性P値=0.87		
						遠位結腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 遠位結腸がん発症リスクに差は見られな かった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.18 (0.61-2.29) 第3四分位 1.36 (0.69-2.68) 第4四分位 1.10 (0.52-2.36) 傾向性P値=0.93 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.84 (0.76-4.45) 第3四分位 1.48 (0.57-3.82) 第4四分位 1.50 (0.53-4.21) 傾向性P値=0.62		

				調査		調査項目		結果		
<del></del>	著者	調査国・	研究対象	<u>方法</u>	食事調		アウトカム指標	利点、重要性に関する 共変	 5量の調整	キーワード
台号	百日 (発行年)	地域	斯九对家 者	研究 デザ	<sup>艮争嗣</sup> 査方法	調査項目	(利点、重要性	利点、重要性に関する 共変調査結果(関連)	と里の神笠	<del>イー・ノー</del> ト
.,	()[1]-/	~U~%	(年齢層・	イン	五刀丛	M. 丘·汉 L	に関する調査項	M. 五····································		
			調査対象				目)			
								<b>仁統食パターン</b>		

得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 遠位結腸がん発症リスクに差は見られな かった。

相対危険度(95%信頼区間)

男性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 0.91 (0.43-1.92)

第3四分位 1.24 (0.58-2.63)

第4四分位 1.21 (0.53-2.77)

傾向性P値=0.26

女性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 1.25 (0.53-2.99)

第3四分位 1.12 (0.44-2.84)

第4四分位 1.84 (0.75-4.50)

傾向性P値=0.53

#### 欧米食パターン

得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 遠位結腸がん発症リスクに差は見られな かった。

相対危険度(95%信頼区間)

男性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 1.04 (0.55-1.98)

第3四分位 0.89 (0.44-1.77)

第4四分位 1.10 (0.55-2.20)

傾向性P値=0.84

女性

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 2.15 (0.80-5.77)

第3四分位 2.18 (0.79-6.03)

第4四分位 3.48 (1.25-9.65)

傾向性P値=0.30

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//仏</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						直腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による直腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.74 (0.38-1.43) 第3四分位 0.79 (0.40-1.54) 第4四分位 0.76 (0.37-1.58) 傾向性P値=0.76 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.05 (0.48-2.30) 第3四分位 0.33 (0.11-1.05) 第4四分位 0.33 (0.11-1.05) 第4四分位 1.43 (0.62-3.28) 傾向性P値=0.34 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 直腸がん発症リスクに差は見られなかった。 有対危険度(95%信頼区間) 男生 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.59 (0.28-1.29) 第3四分位 0.73 (0.35-1.54) 第4四分位 0.62 (0.28-1.39) 傾向性P値=0.87 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.87 (0.39-1.97) 第3四分位 0.84 (0.37-1.94) 第4四分位 0.85 (0.36-2.02) 傾向性P値=0.84		

				調査		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>方法</u> 研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による 直腸がん発症リスクに差は見られなかっ た。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.71 (0.37-1.37) 第3四分位 0.70 (0.36-1.39) 第4四分位 0.73 (0.36-1.46) 傾向性P値=0.87 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.66 (0.30-1.46) 第3四分位 0.68 (0.30-1.55) 第4四分位 0.77 (0.32-1.83) 傾向性P値=0.64		

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>カム</u> 研究 デザ イン	査方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
4	Mizoue Tetsuya, et al (2005)	福岡県、熊本県	自康加平52歳 情研者 52歳視シー 52歳視シー 52歳 が 52歳 51,341 (1,341)	横断研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	大腸ポリープもしくはがんのない男性995人を対象に、39食品群に基づき抽出された食事パターンDFSA食事パターンは、発酵乳製品、牛乳、菓子、パン、果物、野菜の高摂取と焼酎の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 8.5 %)	大腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意に大腸腺 腫有病のオッズが38%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.97(0.70-1.36) 第3四分位 0.71(0.50-1.01) 第4四分位 0.62(0.43-0.90) 傾向性P値=0.003	病院 年親の大腸が ん歴位 BMI 喫煙状況 余暇の身体活 動量	食事パター 大腸腺腫 は年男性
						動物食品食事パタ―ンは、多様な動物性食品(赤肉、鶏肉、魚以外の魚介類、加工肉、魚加工品)と揚げ物、焼き物の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7.9%)		動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.87 (0.61-1.23) 第3四分位 0.91 (0.64-1.28) 第4四分位 0.86 (0.60-1.23) 傾向性P値=0.49		
						日本食パターンは、日本の伝統食品(大豆製品、海藻、漬物、緑茶)、野菜、魚介類の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7.7%)		日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.96 (0.67-1.38) 第3四分位 1.13 (0.79-1.61) 第4四分位 1.18 (0.83-1.69) 傾向性P値=0.26		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							結腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比		_

を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意に結腸腺 腫有病のオッズが41%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.93 (0.66-1.32) 第3四分位 0.70 (0.48-1.01)

第4四分位 0.59 (0.40-0.87)

傾向性P値=0.003

動物食品食事パターン

得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による結腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 0.93 (0.64-1.35)

第3四分位 0.97 (0.67-1.40)

第4四分位 0.95 (0.65-1.38)

傾向性P値=0.85

### 日本食パターン

得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による結腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.93 (0.64-1.37)

第3四分位 1.09 (0.76-1.59)

第4四分位 1.11 (0.77-1.62)

傾向性P値=0.45

				調査 <u>方法</u>	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガス</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						近位結腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意に近位結 腸腺腫有病のオッズが50%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.00(0.64-1.54) 第3四分位 0.67(0.41-1.09) 第4四分位 0.50(0.30-0.85) 傾向性P値=0.003		
							動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸腺腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.84 (0.51-1.39) 第3四分位 1.08 (0.68-1.73) 第4四分位 0.94 (0.57-1.53) 傾向性P値=0.95		
							日本食パターン		

日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸腺腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.87 (0.53-1.42) 第3四分位 0.92 (0.56-1.49) 第4四分位 1.08 (0.67-1.74) 傾向性P値=0.70

				調査 <u>方法</u>	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//公</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						遠位結腸腺腫有 病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.00 (0.64-1.54) 第3四分位 0.77 (0.48-1.23) 第4四分位 0.68 (0.42-1.11) 傾向性P値=0.08		
							動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸腺腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.01 (0.63-1.62) 第3四分位 0.95 (0.59-1.52) 第4四分位 1.01 (0.63-1.62) 傾向性P値=0.97		
							日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.10 (0.67-1.79) 第3四分位 1.43 (0.09-2.28)		

第4四分位 1.21 (0.74-1.96) 傾向性P値=0.35

				調査方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						直腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.48-1.84) 第3四分位 0.64 (0.30-1.36) 第4四分位 0.71 (0.34-1.48) 傾向性P値=0.26		
							動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.66 (0.33-1.34) 第3四分位 0.64 (0.31-1.32) 第4四分位 0.62 (0.30-1.28) 傾向性P値=0.22		
							日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.58 (0.71-3.51) 第3四分位 1.56 (0.70-3.47) 第4四分位 1.79 (0.82-3.92) 傾向性P値=0.18		

				調査		調査項目		結果		
				<sub>奶且</sub> 方法		<b>侧且块口</b>		和本		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
5	Hirose Kaoru, et al (2007)	愛知県	HERPACC 研究参加 者 40-79歳、 症例、 1,885人、 対照、 22,333人	症例照究		22333人を対象に、31食品・飲料に基づき抽出された食事パターン健康食パターンは、野菜、果物、豆乳、魚、牛乳の高摂取と脂が多く塩分の多い食品の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 3.0 %)	乳がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意にオッズが 27%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位1.00(基準) 第2四分位0.89(0.78-1.01) 第3四分位0.85(0.74-0.97) 第4四分位0.73(0.63-0.84) 傾向性P値<0.0001	年受動B閉出最齢初喫飲乳身 齢診機I 経産初 経煙酒が体 年 状人の 年状状ん活 児数妊 齢況況家動 を を を を を を を を を を を を を	食事パターンパがんのでは、
						脂肪パターンは、肉、ハム、ソーセージ、その他の油の多い食品の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 2.0 %)		脂肪パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による乳がん発症 リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.12 (0.98-1.28) 第3四分位 0.97 (0.84-1.11) 第4四分位 0.99 (0.85-1.14) 傾向性P値=0.41		
						日本食パターンは、朝食の米飯、みそ汁の高摂取とコーヒーの低摂取に特徴づけられる。(説明率: 1.4%)		日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による乳がん発症 リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.16 (1.01-1.33) 第3四分位 1.10 (0.96-1.27) 第4四分位 1.04 (0.90-1.20) 傾向性P値=0.82		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>/ 研究</u> デザ イン		テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						食塩パターンは、塩辛い食品(漬物、塩蔵/乾燥魚)の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 1.2%)		食塩パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による乳がん発症 リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.08 (0.95-1.24) 第3四分位 1.04 (0.91-1.19) 第4四分位 1.04 (0.90-1.19) 傾向性P値=0.76		
6	Oba Shimo, et al (2009)	岐阜県高山市	高山スタ ディ歳以上、 29,079仕 (男性 13,355人、 女性 15,724人)	前き究追期年向研 跡間	食物類查 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	がん死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点によるがん死亡 リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95% 信頼区間): 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.98 (0.73-1.30) 第3四分位 0.95 (0.71-1.26) 第4四分位 1.05 (0.80-1.39) 傾向性P値=0.76 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.68 (0.47-0.98) 第3四分位 0.89 (0.64-1.26) 第4四分位 0.92 (0.66-1.29) 傾向性P値=0.84	年BMI 埋体育血尿经状况動 电极低级 化苯基甲氏氏统 化二甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基	食事バランスがん死亡成年男女

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>カ法</u> 研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
7	Kurotani Kayo, et al (2010)	福岡県	福 が加 参 40-74 未 40-74 表 800 人 775 人 775 人	症例 対究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	福岡大腸がん研究参加者の対照 群775人を対象に、29食品群に基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、海藻、大豆食品の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 12.3 %)	大腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.04 (0.78-1.39) 第3四分位 0.81 (0.60-1.10) 第4四分位 0.79 (0.58-1.08) 傾向性P値=0.05	性年居喫飲10職余動両ん総 別齢住煙酒年種暇量親歴エ ル況況のBMI ののの の大 ルボー ボー ボー	食事パター ン 大腸がん 40歳以上 の男女
						高脂肪食パターンは、脂肪、油、赤肉、加工肉、マヨネーズ、鶏肉、パン、麺類の高摂取と米飯の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 10.8 %)		高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.08 (0.81-1.44) 第3四分位 1.13 (0.85-1.51) 第4四分位 0.99 (0.73-1.34) 傾向性P値=0.96	摂取量	
						軽食パターンは、洋菓子、和菓子、 乳製品、パン、果物の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 5.6%)		軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.07 (0.80-1.43) 第3四分位 0.95 (0.70-1.30) 第4四分位 1.19 (0.86-1.65) 傾向性P値=0.42		

				調査	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>方法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						近位結腸がん発 症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.90 (1.14-3.19) 第3四分位 1.28 (0.74-2.22) 第4四分位 1.23 (0.71-2.15) 傾向性P値=0.87		
							高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.28 (0.79-2.07) 第3四分位 1.63 (1.02-2.61) 第4四分位 1.09 (0.66-1.82) 傾向性P値=0.47		
							軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.79 (0.48-1.30)		

第3四分位 0.96 (0.58-1.61) 第4四分位 1.05 (0.62-1.79) 傾向性P値=0.65

				調査 <u>方法</u>	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						遠位結腸がん発 症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ、最も高い群では、遠位結腸がん発症 リスクが統計学的有意に50%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.83 (0.56-1.23) 第3四分位 0.68 (0.44-1.03) 第4四分位 0.50 (0.32-0.78) 傾向性P値=0.002		
							高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.95 (0.64-1.42) 第3四分位 1.04 (0.69-1.56) 第4四分位 0.91 (0.59-1.39) 傾向性P値=0.78		
							軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.08 (0.72-1.62)		

第3四分位 0.89 (0.57-1.40) 第4四分位 1.17 (0.73-1.87) 傾向性P値=0.70

番 著者 調査圏・				調査 方法	調査項目		結果		
直腸が心発症 健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を第出した結果、得点による直腸が心発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95% [勝阿区間) 第 四分位 1,00 (基準) 第 2四分位 0,83 (0,64-1,34) 第 2四分位 0,83 (0,64-1,34) 第 2四分位 0,83 (0,64-1,41) (傾向性中値=0,65) 高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を第出した結果、得点による直腸が心発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95% [動解区間) 第 2四分位 1,00 (基準) 第 2四分位 1,00 (基準) 第 200分位 0,99 (0,68-1,46) 第 300分位 0,99 (0,68-1,46) 第 400分位 0,99 (0,68-1,46) 第 500分位 0,99 (0,68-1,54)	番号		者 (年齢層•	研究 デザ		(利点、重要性 に関する調査項 目)	調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
			調査対象			直腸がん発症	得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による直腸がん発症リスクに差は見られなかった。オッズ比(95%信頼区間)第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.93 (0.64-1.34)第3四分位 0.81 (0.55-1.20)第4四分位 0.95 (0.64-1.41)傾向性P値=0.65  高脂肪食パターン得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による直腸がん発症リスクに差は見られなかった。オッズ比(95%信頼区間)第1四分位 1.05 (0.79-1.66)第3四分位 1.15 (0.79-1.66)第3四分位 1.06 (0.72-1.56)傾向性P値=0.99  軽食パターン得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、見られなかった。オッズ比(95%信頼区間)第1四分位 1.06 (0.72-1.56)傾向性P値=0.99  軽食パターン得点の四分位で対象者を分け、湯がん発症リスプに差は見られなかった。オッズ比(95%信頼区間)第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 1.24 (0.85-1.81)第3四分位 1.02 (0.68-1.54)第4四分位 1.29 (0.84-1.97)		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<del>// 研究</del> デザ イン		テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
8	Pham Truong- Minh, et al (2010)	全国45地 域	JACC研究 参加名 40-79歳、 63,403人 (男性 25,730人、 女性 37,673人)	前き究追期平値男12年女13年向研 跡間均 性7、性5	食物摂 取頻査 (FFQ)	JACC研究参加者の男性25730人、 女性37673人を対象に、38食品・飲料に基づき抽出された食事パターン 野菜パターンは、野菜、いも類、きのこ類、海藻、大豆製品、果物、みそ汁、新鮮な魚の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 男性 12.6%; 女性 11.3%)	胃がん死亡	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による胃がん死 亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.03(0.74-1.43) 第3四分位 0.92(0.65-1.29) 第4四分位 1.15(0.83-1.59) 傾向性P値=0.47 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.00(0.63-1.54) 第3四分位 0.83(0.51-1.34) 第4四分位 0.99(0.63-1.57) 傾向性P値=0.83	年 学 学 代 性 と は 性 は た が の で を ル が の で を で が の で で で で で で で で で で で で が り で で が り で が り で り で	食事パターン間がんのでは、
						動物性食品パターンは、肉、揚げ物、魚加工品、塩蔵魚の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 男性6.7%; 女性6.6%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による胃がん死 亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.12(0.80-1.54) 第3四分位 1.14(0.81-1.58) 第4四分位 1.02(0.73-1.45) 傾向性P値=0.90 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.45(0.92-2.29) 第3四分位 1.32(0.81-2.16) 第4四分位 1.31(0.78-2.21) 傾向性P値=0.41		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ <u>調査対象</u>	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						乳製品パターンは、牛乳、乳製品、 果物、コーヒー、紅茶の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 男性 5.9%; 女性 6.2%)		乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、女性では得点による 胃がん死亡リスクに差は見られなかった ものの、男性では最も得点が低い群に比 べ最も高い群では、リスクが28%低かっ た。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.82 (0.61-1.10) 第3四分位 0.74 (0.54-1.01) 第4四分位 0.72 (0.52-0.99) 傾向性P値=0.03 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.96 (0.64-1.45) 第3四分位 0.74 (0.47-1.18) 第4四分位 0.77 (0.48-1.23) 傾向性P値=0.17		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
9	Kumagai Yumi, et al (2014)	大崎(宮城 県)	大崎軍民 健康一人 加者 40-79歳、 44,097人 (男性 21,075人、 女性 23,022人)	前き究追期11 向研 跡間年	食物摄 取頻度 調査 (FFQ)	の男女44097人を対象に、40食品・ 飲料に基づき抽出された食事パ	大腸がん発症	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による大腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.02 (0.83-1.25) 第3四分位 1.06 (0.86-1.31) 第4四分位 1.04 (0.84-1.30) 傾向性P値=0.37	年 生 出 関 型 世 り で で で で で で で で で で で で で	食事パターントリストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリスト
						動物性食品パターンは、多様な動物性食品(牛肉、豚肉、ハム、ソーセージ、鶏肉、肝臓、バター)、コーヒー、アルコール飲料の高摂取に特徴づけられる。		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による大腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.90 (0.74-1.11) 第3四分位 0.93 (0.76-1.15) 第4四分位 0.99 (0.80-1.23) 傾向性P値=0.88		
						DFA食事パターンは、乳製品(牛乳、ヨーグルト)、マーガリン、果物、野菜(にんじん、カボチャ、トマト)の高摂取と米飯、みそ汁、アルコール飲料の低摂取に特徴づけられる。		DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ、最も得点が高い群で、大腸がん発 症リスクが24%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.88 (0.72-1.06) 第3四分位 0.82 (0.66-1.03) 第4四分位 0.76 (0.60-0.97) 傾向性P値=0.02		

				調 <u>金</u> 方法		調査項目		<b>結果</b>		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							結腸がん発症	日本食パターン		_

得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.89 (0.68-1.15) 第3四分位 1.00 (0.77-1.30)

第4四分位 1.01 (0.77-1.32) 傾向性P値=0.37

動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん

発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間)

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 0.86 (0.67-1.10)

第3四分位 0.89 (0.69-1.15)

第4四分位 0.87 (0.66-1.13)

傾向性P値=0.68

### DFA食事パターン

得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間)

第1四分位 1.00 (基準)

第2四分位 0.93 (0.73-1.19)

第3四分位 0.89 (0.67-1.17)

第4四分位 0.89 (0.66-1.19)

傾向性P値=0.43

29

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						直腸がん発症	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による直腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.26 (0.91-1.75) 第3四分位 0.13 (0.80-1.59) 第4四分位 1.05 (0.73-1.51) 傾向性P値=0.74 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による直腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.07 (0.76-1.51) 第3四分位 1.09 (0.77-1.55) 第4四分位 1.23 (0.86-1.76) 傾向性P値=0.58		
							DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ、最も得点が高い群で、直腸がん発 症リスクが44%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.79(0.58-1.07) 第3四分位 0.76(0.53-1.08) 第4四分位 0.56(0.37-0.84) 傾向性P値=0.003		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
10	Kurotani Kayo, et al (2016)	全国11保 健所	JPHC研究 参加者 45-75歳、 79,594人 (男性 36,624人、 女性 42,970人)	前き究平追期14年向研 均跡間9	食物摂 取頻査 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	がん死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点によるがん死亡 リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.87-1.02) 第3四分位 0.94 (0.86-1.02) 第4四分位 0.96 (0.87-1.07) 食事バランスガイド遵守得点が10点増加 する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.96 (0.93-1.00) 傾向性P値=0.053	年性地BI関総高糖脂往コ緑職齢別域II 煙身血尿質歴ー茶業、沢活既既常 上摂動住住産 取動性を変更 再取量を変更 を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	食事バラン スガイド がん死亡 成年男女

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	が 研究 デザ イン		テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
11	Okada Emiko, et al (2016)	全国45地 域	JACC研究 参加者 40-79歳、 男性、 26,562人	前き究追期中値18年 向研 跡間央 9	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	れた食事パターン	食道がん死亡	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による食道がん 死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.77 (0.47-1.27) 第3四分位 0.84 (0.51-1.39) 第4四分位 0.81 (0.48-1.36) 傾向性P値 = 0.53	年 地域 BMI 教 関 を を を で で で で で で が れ れ ま れ ま れ れ ま ま れ れ れ ま ま ま ま ま れ れ れ ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	食事パターンは、食道がん成年男性
						動物性食品パターンは、肉(鶏肉、ハム、肝臓、豚肉、牛肉)、揚げ物、揚げ野菜、揚げ魚の高摂取に特徴づけられる。(説明率:5.3%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による食道がん 死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.62 (0.96-2.74) 第3四分位 0.98 (0.55-1.75) 第4四分位 1.15 (0.65-2.04) 傾向性P値 =0.75		
						乳製品パターンは、乳製品(チーズ、ヨーグルト、バター)、牛乳、マーガリン、コーヒー、お茶の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 4.8%)		乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ、最も高い群では、食道がん死亡リ スクが33%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.84 (0.54-1.30) 第3四分位 0.47 (0.26-0.83) 第4四分位 0.67 (0.38-1.18) 傾向性P値 = 0.04		

				調査方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン		テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
12	Shin Sangah, et al (2016)	全国11保健所	JPHC研究 参加者 45-75歳、 女性、 49,552人	前き究平追期14年向研 均跡間.6	食物摂 取頻査 (FFQ)	JPHC研究参加者の女性49552人を対象に、48食品群に基づき抽出された食事パターン(Nanri et al. 2012) 健康食パターンは、野菜、果物、大豆製品、いも類、海藻類、きのこ類、魚の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 20.7%)	乳がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.88 (0.69-1.11) 第3五分位 1.07 (0.85-1.35) 第4五分位 0.97 (0.77-1.23) 第5五分位 0.96 (0.75-1.23) 傾向性P値=0.93	年地総摂B関東余動総初出初閉 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	食事パターンパがんの女子女性の
						欧米食パターンは、パン、肉、加工肉、乳製品、汁物、コーヒー、ソフトドリンク、紅茶、ソース、マヨネーズ、ドレッシングの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5.5%)		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ最も高い群では、乳がん発症リスク が1.3倍高かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1五分位1.00(基準) 第2五分位1.07(0.84-1.37) 第3五分位1.14(0.89-1.46) 第4五分位1.10(0.86-1.42) 第5五分位1.32(1.03-1.70) 傾向性P値=0.04	女性ホルモン補充療法	
						伝統食パターンは、鮭、魚以外の 魚介類、脂の多い魚、脂の少ない 魚、塩蔵魚、鶏肉、漬物の高摂取 に特徴づけられる。(説明率: 3.7%)		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.15 (0.91-1.47) 第3五分位 1.18 (0.93-1.50) 第4五分位 1.00 (0.78-1.28) 第5五分位 1.03 (0.80-1.32) 傾向性P値=0.69		

				田木		<b>钿木</b> 佰口		<b>社</b> 田		
				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<del>// 研究</del> デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
13	Nanri Akiko, et al (2017)	全健所管内	JPHC研究 多加者 45-74歳、 81,720人 (男性 36,737人、 女性 44,983人)	前き究平追期14年  向研 均跡間8	調査	女性54,222人を対象に、48食品群に基づき、男女別に抽出された食事パターン健康食パターンは、野菜、果物、大豆製品、いも類、海藻類、きのこ類、魚(脂の多い魚、魚以外の魚づけられる。  欧米食パターンは、肉(豚肉、コーヒー、紅茶、ソフトドリング、リースが、ソース、の高摂取に特徴づけられる。  欧米食がターンは、肉(豚肉、コーヒー、紅茶、ソフトドリング、ドウッシング、ソース、マヨネーに特徴づけられる。	がん死亡	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点によるがん死亡 リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.87-1.03) 第3四分位 0.91 (0.84-0.99) 第4四分位 0.95 (0.88-1.04) 傾向性P値 = 0.21 欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ最も高い群では、がん死亡リスクが 9%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.91 (0.84-0.98) 第3四分位 0.91 (0.88-1.00) 傾向性P値 = 0.01 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード	年性地BMI煙身尿血工和量を関連のでは、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	食・パター・パター・パター・パター・パター・パター・パター・パター・パター・パター
						の高摂取に特徴づけられる。		比を算出した結果、得点によるがん死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.99 (0.91-1.09) 第3四分位 0.98 (0.88-1.08) 第4四分位 1.04 (0.95-1.15) 傾向性P値 = 0.41		

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//公</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
14	Kojima Reiji, et al (2017)	全国45地 域	JACC研究 参加者 40-79歳、 女性、 23,172人	前き究追期中値 16.9 の研 跡間央 9	JACC研究参加者の女性23172人を対象に、39食品・飲料に基づき抽出された食事パターン野菜パターンは、野菜、いも類、海藻類、豆腐、果物、新鮮な魚、卵、みそ汁の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 13.18%)		野菜パターン 得点の三分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 閉経前女性 ハザード比(95%信頼区間) 第1三分位 1.00(基準) 第2三分位 1.21(0.59-2.47) 第3三分位 0.81(0.35-1.89) 傾向性P値=0.61 閉経後女性 ハザード比(95%信頼区間) 第1三分位 1.00(基準) 第2三分位 0.98(0.51-1.88) 第3三分位 0.93(0.48-1.78) 傾向性P値=0.85	年地喫飲乳初初出エ取ホ歩教BMI 状状ん年産人ルーン問 況況家齢齢数ギーン間 BMI 歴 提 法 BMI	食事パターン乳がん成年女性
					動物性食品パターンは、肉、揚げ物、揚げ野菜、魚加工品、塩蔵魚の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5.58%)		動物性食品パターン 得点の三分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、閉経後女性において は得点による乳がん発症リスクに差は見 られなかったものの、閉経前女性におい ては、最も得点が低い群に比べ最も高い 群では、リスクが58%低かった。 閉経前女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.47 (0.22-1.00) 第3三分位 0.42 (0.18-0.93) 傾向性P値=0.04 閉経後女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 1.12 (0.62-2.02) 第3三分位 0.98 (0.48-1.99) 傾向性P値=0.83		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>研究</u> デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						乳製品パターンは、牛乳、乳製品、 果物、コーヒー、紅茶の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 4.99 %)		乳製品パターン 得点の三分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 閉経前女性 ハザード比(95%信頼区間) 第1三分位 1.00(基準) 第2三分位 1.38(0.62-3.07) 第3三分位 1.20(0.52-2.80) 傾向性P値=0.80 閉経後女性 ハザード比(95%信頼区間) 第1三分位 1.00(基準) 第2三分位 0.90(0.48-1.67) 第3三分位 1.32(0.70-2.49) 傾向性P値=0.19		
15	Shin Sangah, et al (2017)	全国11保健所管内	JPHC研究 参加者 45-74歳、 93,062人 (男性 43,591人、 女性 49,471人)	前き究平追期13年 向研 均跡間8	調査	JPHC研究参加者の男性43,591人、 女性49,471人を対象に、48食品群に基づき、男女別に抽出された食事パターン(Nanri et al. 2012) 健康食パターンは、野菜、果物、麺類、いも類、大豆製品、きのこ類、 海藻類の高摂取に特徴づけられる。	大腸がん発症	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、女性では得点による 大腸がん発症リスクに差は見られなかっ たものの、男性においては最も得点が低い群に比べ最も高い群では、リスクが 15%低かった。。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.95 (0.81-1.11) 第3五分位 0.82 (0.70-0.96) 第4五分位 0.90 (0.77-1.05) 第5五分位 0.85 (0.72-1.00) 傾向性P値 = 0.03 女性 第1五分位 0.91 (0.74-1.12) 第3五分位 0.91 (0.74-1.12) 第3五分位 0.91 (0.74-1.11) 第4五分位 0.91 (0.74-1.11) 第5五分位 0.97 (0.79-1.19) 傾向性P値 = 0.74	年地MI 関連 学工取経) 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の	食 事 パター ン 機 り が ん 成 年 男 女

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//公</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
					欧米食パターンは、肉、加工品、うなぎ、乳製品、果物ジュース、コーヒー、紅茶、ソフトドリンク、ソース、アルコール飲料の高摂取に特徴づけられる。		欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による大腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.95 (0.82-1.11) 第3五分位 0.95 (0.82-1.11) 第3五分位 0.85 (0.72-1.00) 第5五分位 0.90 (0.75-1.07) 傾向性P値 = 0.09 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.12 (0.92-1.37) 第3五分位 1.35 (1.11-1.64) 第4五分位 1.17 (0.95-1.45) 第5五分位 1.19 (0.94-1.49) 傾向性P値 = 0.08		
					伝統食パターンは、漬物、魚介類、 魚(脂の多い魚、塩蔵魚、脂の少な い魚、鮭)、鶏肉、日本酒(男性の み)の高摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による大腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1五分位1.00(基準) 第2五分位0.93(0.77-1.13) 第3五分位0.90(0.74-1.11) 第4五分位0.85(0.69-1.05) 第5五分位0.99(0.80-1.21) 傾向性P値=0.81 女性 第1五分位1.00(基準) 第2五分位0.93(0.76-1.15) 第3五分位0.82(0.66-1.03) 第4五分位0.94(0.75-1.17) 第5五分位0.98(0.79-1.22) 傾向性P値=0.78		

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>万法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標(利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						結腸がん発症	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.89 (0.73-1.08) 第3五分位 0.77 (0.63-0.94) 第4五分位 0.83 (0.68-1.01) 第5五分位 0.85 (0.70-1.04) 傾向性P値 = 0.06 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.90 (0.71-1.15) 第3五分位 0.89 (0.70-1.12) 第3五分位 0.89 (0.70-1.12) 第5五分位 0.81 (0.64-1.03) 傾向性P値 = 0.11		
							欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、男性では得点による 結腸がん発症リスクに差は見られなかっ たものの、女性では最も得点が低い群に 比べ最も高い群では、リスクが1.3倍高 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.03 (0.86-1.24) 第3五分位 0.92 (0.75-1.12) 第5五分位 0.94 (0.76-1.16) 傾向性P値 = 0.38 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.15 (0.91-1.45) 第3五分位 1.40 (1.12-1.76) 第4五分位 1.24 (0.97-1.59)		

第5五分位 1.28 (0.98-1.68) 傾向性P値 = 0.03

				調査	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>方法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						近位結腸がん発症	伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.93 (0.72-1.21) 第5五分位 0.93 (0.72-1.21) 第5五分位 1.11 (0.86-1.43) 傾性性 第1五分位 0.83 (0.70-1.13) 第3五分位 0.89 (0.70-1.13) 第3五分位 0.89 (0.68-1.15) 第5五分位 0.89 (0.68-1.15) 第5五分位 1.00 (0.78-1.29) 傾康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、その五分に差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.00 (0.73-1.36) 第3五分位 0.92 (0.67-1.27) 第4五分位 1.00 (0.73-1.36) 第5五分位 1.12 (0.82-1.52) 傾向性P値 = 0.78 女性 第1五分位 0.99 (0.74-1.34) 第4五分位 0.99 (0.74-1.34) 第4五分位 0.99 (0.58-1.08) 傾向性P値 = 0.25		

				調査		調査項目		結果	
**	著者	調査国・	研究対象	<u>方法</u> 研究	食事調	テーマに関連する	アウトカム指標	利点、重要性に関する 共変量の調整	_ キーワード
号	(発行年)	地域	者			調査項目	(利点、重要性	調査結果(関連)	7 7 1
			(年齢層・ 調査対象	イン			に関する調査項		

### 欧米食パターン

得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による近位結腸 がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間)

男性

第1五分位 1.00 (基準)

第2五分位 0.98 (0.73-1.30)

第3五分位 1.22 (0.92-1.62)

第4五分位 1.03 (0.76-1.40)

第5五分位 0.92 (0.65-1.29) 傾向性P値 = 0.94

女性

第1五分位 1.00 (基準)

第2五分位 1.24 (0.92-1.66)

第3五分位 1.44(1.07-1.94)

第4五分位 1.15 (0.83-1.60)

第5五分位 1.30 (0.92-1.85)

傾向性P値 = 0.15

### 伝統食パターン

得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による近位結腸 がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間)

17 「12 (357)目標区に

男性

第1五分位 1.00 (基準)

第2五分位 0.98 (0.68-1.41)

第3五分位 0.81 (0.55-1.21)

第4五分位 0.78 (0.52-1.17)

第5五分位 0.94 (0.63-1.39)

傾向性P値 = 0.63

女性

第1五分位 1.00 (基準)

第2五分位 1.01 (0.74-1.38)

第3五分位 0.88 (0.63-1.24)

第4五分位 0.88 (0.62-1.24)

第5五分位 1.08 (0.78-1.51)

傾向性P値 = 0.85

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>研究</u> デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						遠位結腸がん発症	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、女性では最も見られな かったものの、男性では最もが低い 群に比べました。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 0.68 (0.52-0.90) 第3五分位 0.66 (0.50-0.86) 第4五分位 0.73 (0.57-0.95) 第5五分位 0.68 (0.52-0.88) 傾向性P値 = 0.004 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.05 (0.71-1.55) 第3五分位 0.87 (0.58-1.32) 第5五分位 0.87 (0.58-1.32) 第5五分位 0.84 (0.55-1.27) 傾向 とののより (0.56 に対した結果、男性では差は見が低い みをからしたものの、女性では最も得点がしたものの、女性では最も得点がしたものの、女性では最も得点がによい。 アゲード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.06 (0.82-1.35) 第3五分位 0.92 (0.71-1.20) 第4五分位 0.83 (0.62-1.10) 第5五分位 0.95 (0.71-1.27) 傾向性P値 = 0.31 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.00 (基準) 第3五分位 1.35 (0.91-1.99) 第4五分位 1.34 (0.86-2.09)		

調査 調査 調査 調査 調査項目 結果		
番 著者 調査国・ 研究対象 研究 食事調 テーマに関連する アウトカム指標 利点、重要性に関する 号 (発行年) 地域 者 デザ 査方法 調査項目 (利点、重要性 調査結果(関連) (年齢層・ イン に関する調査項 調査対象 目)	共変量の調整	キーワード
伝統食パターン		

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//公</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による直腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 0.81 (0.63-1.05) 第3五分位 0.82 (0.63-1.17) 第4五分位 0.73 (0.55-0.97) 第5五分位 0.82 (0.61-1.10) 傾向性P値 = 0.08 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.00 (0.82-1.76) 第3五分位 1.20 (0.82-1.76) 第4五分位 0.96 (0.61-1.50) 傾向性P値 = 0.89 伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 0.78 (0.56-1.07) 第3五分位 0.78 (0.56-1.07) 第3五分位 0.78 (0.56-1.07) 第3五分位 0.78 (0.55-1.11) 傾向性P値 = 0.20 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.78 (0.55-1.11) 傾向性P値 = 0.20 女性 第1五分位 1.07 (0.72-1.58) 第3五分位 0.76 (0.49-1.18) 第4五分位 1.09 (0.72-1.64) 第5五分位 0.90 (0.59-1.39) 傾向性P値 = 0.70		

# 食事パターンと循環器疾患に関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
1	Okamoto Kazushi, et al (2006)	愛知県名	症人(30-79 人歲、30-79 59.0対人(30-79) 59.0対人(30-74) 59.0対人(30-74) 59.0対人(40-74) 59.0対 59.0対 59.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 50.0対 5	症例照究	食物摂 取頻査 (FFQ)	対照男女201人を対象に、抽出された食事パターン 大豆製品豊富パターンは大豆由来食品の高摂取に特徴づけられる。	〈も膜下出血発症	大豆製品豊富パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、〈も膜下出血 発症リスクが54%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.75 (0.39-1.78) 第3四分位 0.66 (0.24-1.12) 第4四分位 0.46 (0.18-0.88) 傾向性P値 = 0.01	年齢 性別 地域 大況 食酒上既往歴 くも膜下出血家族歴 教育歴	食事パターン くも膜下出血 成年男女
2	Shimazu Taichi, et al (2007)	神奈川県大崎市	大崎康 健康 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	前き究追期年 向研 跡 17	食物摂 取頻査 (FFQ)	大崎国民健康保険コホート参加者の男女40,547人を対象に、40食品に基づき抽出された食事パターン日本食パターンは、大豆製品、魚、海藻類、野菜、果物、緑茶の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 15.1%)	循環器疾患死亡	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが26%低かった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00(基準)第2四分位 0.77 (0.63-0.94)第3四分位 0.71 (0.58-0.88)第4四分位 0.74 (0.59-0.91)傾向性P値 = 0.004	年齢 性別 喫煙状況 歩行時間 教育歴 総エネルギー摂取量 BMI 高血圧既往歴	食事パターン 循定 動脈性心疾 患が変を 患が変を 患が変を はいまで がです。 はいまで はいまで はいまで はいまで はいまで はいまで はいまで はいまで

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
					動物性食品パターンは、多様な動物性食品(牛肉、豚肉、ハム、ソーセージ、鶏肉、肝臓、バター)、コーヒー、アルコール飲料の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 6.4%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが1.2倍高かった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.93 (0.76-1.13)第3四分位 1.14 (0.93-1.39)第4四分位 1.24 (1.00-1.54)傾向性P値 = 0.02		
					DFA食事パターンは、乳製品(牛乳、ヨーグルト)、マーガリン、果物、野菜(にんじん、カボチャ、トマト)の高摂取と米飯、みそ汁、アルコール飲料の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 4.8%)		DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による循環器疾患死亡リスクの差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 1.18 (0.96-1.45)第3四分位 1.10 (0.87-1.38)第4四分位 0.89 (0.69-1.14)傾向性P値 = 0.19		
						冠動脈性心疾患 死亡 (coronary heart disease)	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による冠動脈性心疾患死亡リスクの差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間)第1四分位1.00(基準)第2四分位0.86(0.57-1.29)第3四分位0.71(0.46-1.11)第4四分位0.82(0.52-1.29)傾向性P値=0.29		

				調査		調査項目		結果		
				<u>方法</u>				·		
番	著者	調査国・	研究対象	研究		テーマに関連する	アウトカム指標	利点、重要性に関する	共変量の調整	キーワード
号	(発行年)	地域	者	デザ	査方法	調査項目	(利点、重要性に	調査結果(関連)		
			(年齢層・	イン			関する調査項目)			
			調査対象							
								動物性食品パターン		

動物性食品バターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による冠動脈性心疾 患死亡リスクの差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間)

ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.10 (0.72-1.70) 第3四分位 1.39 (0.89-2.16) 第4四分位 1.50 (0.95-2.37) 傾向性P値 = 0.05

脳卒中死亡(total 日本食パターン stroke) 得点の四分位で

日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、脳卒中死亡リスクが36%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.71(0.54-0.92) 第3四分位 0.67(0.51-0.88) 第4四分位 0.64(0.48-0.86) 傾向性P値 = 0.004

動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による脳卒中死亡リスクの差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位1.00(基準) 第2四分位0.89(0.69-1.15) 第3四分位1.11(0.85-1.45) 第4四分位1.00(0.74-1.35) 傾向性P値=0.66

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>万法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						脳梗塞死亡 (cerebral infarction)	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ、最も高い群では、脳梗塞死亡リスクが40%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.89 (0.59-1.36) 第3四分位 0.73 (0.47-1.15) 第4四分位 0.60 (0.37-0.99) 傾向性P値 = 0.03 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を類出した結果、の差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.03 (0.68-1.56) 第3四分位 1.09 (0.69-1.71) 第4四分位 1.14 (0.71-1.85) 傾向性P値 = 0.57		
						脳出血死亡 (intracerebral hemorrhage)	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、脳出血死亡リスクが40%低かった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00(基準)第2四分位 0.63(0.39-1.02)第3四分位 0.52(0.31-0.88)第4四分位 0.60(0.36-1.03)傾向性P値 = 0.04		

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>/</u> 研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による脳出血死亡リスクの差は見られなかった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00(基準)第2四分位 0.71(0.44-1.16)第3四分位 0.89(0.54-1.46)第4四分位 0.86(0.50-1.47)傾向性P値 = 0.71		
3	Oba Shino, et al (2009)	岐阜県高山市	高山スタ ディ参以上、 29.079人 (男性 13,355人、 女性 15,724人)	前き究追期年向研 跡間7	食物摂 取調 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	循環器疾患死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による循環器疾患死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間): 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.90 (0.64-1.25) 第3四分位 0.86 (0.62-1.20) 第4四分位 1.06 (0.78-1.45) 傾向性P値=0.70 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.95 (0.71-1.28) 第3四分位 0.79 (0.58-1.08) 第4四分位 0.76 (0.56-1.04) 傾向性P値=0.05	年MI W	食事バランスガイド循環器疾患死亡成年男女

				田木		细木佰日		<b>红</b> 田		
				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
4	Maruyama (2013)	全国35地域	JACC研究 参加者 40-79歳、 64,037人 (男性 26,598人、 女性 37,439人)	前き究追期中値12年 前時 いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん	食物摂 取頻査 (FFQ)	JACC研究参加者の男性26,598人、 女性37,439人を対象に、40 食品に 基づき男女別に抽出された食事パ ターン 野菜パターンは、新鮮な野菜、きの こ類、いも類、海藻類、豆腐、果物 の高摂取に特徴づけられる。(説明 率: 男性11.9%、女性10.7%)	循環器疾患死亡	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、男性では得点による循環器疾患死亡リスクに差は見られなかったものの、女性で最も高い群では、リスクが18%低かった。 ハザード比(95%信頼区間)男性第1五分位1.00(基準)第2五分位0.95(0.79-1.14)第3五分位0.97(0.81-1.17)第5五分位0.93(0.78-1.13)傾向性P値=0.73 女性第1五分位1.00(基準)第3五分位0.91(0.81-1.15)第3五分位0.95(0.79-1.14)第5五分位0.93(0.78-1.15)第5五分位0.93(0.78-1.15)第5五分位0.98(0.73-1.08)第4五分位0.88(0.72-1.08)第5五分位0.88(0.72-1.08)第5五分位0.88(0.72-1.08)第6五分位0.82(0.67-1.00)傾向性P値=0.04	年齢 BMI 喫煙行時間 教育更新育節の時間 も世眠ネルギー摂取 自眠スルギー摂取 高血圧既往歴 糖尿病既往歴	食事パターン 循環 卒脈 一 空間 一 空間 一 で 一 で で 一 で で 一 で で 一 で で 一 で で の で の で の の の の の の の の の の の の の の

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						動物性食品パターンは、肉、魚介類、揚げ物・てんぷらの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 男性7.0%、女性7.0%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による循環器疾患死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.79(0.67-0.94) 第3五分位 0.81(0.68-0.97) 第4五分位 0.90(0.75-1.07) 第5五分位 0.88(0.73-1.05) 傾向性P値 = 0.50 女性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.93(0.78-1.11) 第3五分位 0.98(0.81-1.18) 第4五分位 1.01(0.83-1.23) 第5五分位 1.08(0.87-1.34) 傾向性P値 = 0.42		

				調査		調査項目		結果		
				<u>方法</u>						
番	著者	調査国•	研究対象	研究		テーマに関連する	アウトカム指標	利点、重要性に関する	共変量の調整	キーワード
号	(発行年)	地域	者	デザ	査方法	調査項目	(利点、重要性に	調査結果(関連)		
			(年齢層•	イン			関する調査項目)			
			調査対象			可制口 35万 7 1 4 4 可 可 割口		可生10.8万人。		

乳製品パターンは、牛乳、乳製品、 バター、マーガリン、果物、コー ヒー、お茶の高摂取に特徴づけら れる。(説明率: 男性5.6%、女性6.0%) 乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、男性では得点による循環器疾患死亡リスクに差は見られなかったものの、女性では、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、リスクが24%低かった。

ハザード比 (95%信頼区間) 男性

第1五分位 1.00 (基準)

第2五分位 1.00 (0.84-1.19)

第3五分位 1.16 (0.98-1.38)

第4五分位 0.99 (0.82-1.19)

第5五分位 0.89 (0.74-1.08)

傾向性P値 = 0.23

女性

第1五分位 1.00 (基準)

第2五分位 0.86 (0.73-1.02)

第3五分位 0.90 (0.75-1.08)

第4五分位 0.79 (0.65-0.96)

第5五分位 0.76 (0.61-0.94)

傾向性P値 = 0.01

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//仏</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						脳卒中死亡 (stroke)	野菜パターク (1.00 (基準) 第3五分位 0.80 (0.59-1.08) 第4五分位 0.93 (0.70-1.24) 第3五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.01 (0.68-1.22) 傾射 (1.00 (基準) 第2五分位 1.01 (0.68-1.22) 傾射 (1.00 (基準) 第2五分位 1.03 (0.70-1.24) 第3五分位 0.80 (0.59-1.08) 第4五分位 0.80 (0.66-1.19) 第5五分位 0.91 (0.68-1.22) 傾射 (1.00 (基準) 第2五分位 0.91 (0.68-1.22) 傾射 (1.00 (基準) 第2五分位 0.91 (0.68-1.22) 傾射 (1.00 (基準) 第3五分位 0.97 (0.61-1.03) 第3五分位 0.98 (0.75-1.09) 第4五分位 0.93 (0.75-1.21) 第5五分位 0.97 (0.74-1.27) 傾性 第1五分分位 0.97 (0.74-1.27) 傾性 第1五分分位 0.97 (0.74-1.27) 傾性 第1五分分位 0.97 (0.75-1.41) 傾射 (1.00 (基準) 第3五分位 0.97 (0.64-1.18) 第5五分性 0.97 (0.67-1.41) 傾言 0.95		

				調査	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>方法</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	 キーワード
						冠動脈性心疾患 死亡 (coronary heart disease)	乳得のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳傷のです。 乳色のです。 乳色のです。 乳色のです。 乳色のです。 乳色のです。 乳色のです。 乳色のです。 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳色ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳ののでは、 乳をできる。 、 乳をできる。 、 乳をできる。 、 乳をできる。 、 乳をできる。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		

				-m			W. III		
				調査 <u>方法</u>	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//仏</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							動物に パタウン オール (1.00 (基準) 第3五分位 (1.00 (基準) 第3五分位 (1.00 (3.7-1.26) 第3五分位 (1.00 (3.7-1.26) 第3五分位 (1.00 (3.8 年) (3.8 年) (3.8 年) (3.8 年) (4.8 年)		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
5	Li Ying, et al (2014)	長野界郡	SAKUCES Sプル 20-79歳 (平均53.3 歳)、883人 (男性 4,939人、 女性7,944 人)	前き究追期10向研 跡間年	食物類 取 調 (FFQ)	SAKUCESSプロジェクト参加者の 12,883人を対象に、16食品に基づきクラスター分析により抽出された 食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、海藻類、牛乳、魚、豆類の高摂取に特徴づけられる。 伝統食パターンは、味噌、漬物、米飯の高摂取と野菜、牛乳、肉の低摂取に特徴づけられる。  欧米食パターンは、脂肪と肉の高摂取に特徴づけられる。	循環器疾患死亡	健康食パターン ハザード比 (95%信頼区間) 1.00 (基準)  伝統食パターン 健康食パターンに比べ、循環 器疾患死亡のリスクが1.5倍高 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) vs 健康食パターン 1.53 (1.12-2.09) P=0.007 欧米食パターン 健康食パターン 健康食パターン 健康食パターン に比べ、循環 器疾患死亡のリスクが2.6倍高 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) vs 健康食パターン 2.62 (1.46-4.68) P=0.001	年齢 別煙ででは 明神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神の 神	食事パターン循環器疾患死亡
6	Kurotani Kayo, et al (2016)	全国11保健所	JPHC研究 参加者 45-75歳、 79,594人 (男性 36,624人、 女性 42,970人)	前き究平追期14.9 向研 均跡間.9	食物摂 取 調 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	循環器疾患死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが16%低かった。ハザード比(95%信頼区間):第1四分位1.00(基準)第2四分位0.97(0.87-1.07)第3四分位0.86(0.77-0.97)第4四分位0.84(0.73-0.96) 食事バランスガイド遵守得点が10点増加する毎のハザード比(95%信頼区間):0.93(0.89-0.98)傾向性P値=0.005	年 生 性 地 地 関 関 関 関 関 は は は は は は は は は は は は は	食事バランス ガイで 循行 疾患 疾患 で疾患 で疾血 で で で で で で で で で で で で で

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						心疾患死亡 (heart disease mortality)	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による心疾患死亡リスクに差は見られなかった。ハザード比(95%信頼区間):第1四分位1.00(基準)第2四分位0.97(0.84-1.13)第3四分位0.92(0.79-1.08)第4四分位0.84(0.70-1.02)		
							食事バランスガイド遵守得点が 10点増加する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.96 (0.90-1.02) 傾向性P値=0.21		
						脳血管疾患死亡 (cerebrovascular disease mortality)	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、脳血管疾患死亡リスクが22%低かった。ハザード比(95%信頼区間):第1四分位 1.00(基準)第2四分位 0.97(0.82-1.15)第3四分位 0.81(0.68-0.98)第4四分位 0.78(0.63-0.97)		
							食事バランスガイド遵守得点が 10点増加する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.89 (0.82-0.95) 傾向性P値=0.002		

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
7	Nanri Akiko, et al (2017)	全国11保健所	JPHC/研究 参加者 45-74歳、 81,720人 (男性 36,737人、 女性 44,983人)	前き究平追期14.8向研 均跡間.8	JPHC研究参加者の男性47,408人、女性54,222人を対象に、48食品群に基づき、男女別に抽出された食事パターンは、野菜、果物、大豆製品、いも類、海藻類、きのこ類、魚(脂の多い魚、魚以外の魚介類、魚加工品)の高摂取に特徴づけられる。  欧米食パターンは、肉(豚肉、牛肉)、パン、乳製品、コーヒー、紅茶、ソフトドリンク、ドレッシング、ソース、マヨネーズの高摂取に特徴づけられる。	循環器疾患死亡	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが28%低かった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.85 (0.77-0.95)第3四分位 0.77 (0.70-0.86)第4四分位 0.72 (0.64-0.79)傾向性P値 <0.001 欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾死亡リスクが22%低かった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00 (基準)第2四分位 0.98 (0.89-1.07)第3四分位 0.85 (0.76-0.94)	年齢 性別 地域 BMI 喫煙状況 総身体活動量 糖尿病既往歴 高血圧既・ 総エネルギー摂取量	食事パターン 循環器・患死 亡の疾患の 成年男女
					伝統食パターンは、鮭、塩蔵魚、脂の多い魚、魚以外の魚介類、漬物の高摂取に特徴づけられる。		第4四分位 0.88 (0.78-0.99) 傾向性P値 = 0.003  伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による循環器疾患死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.84-1.05) 第3四分位 0.88 (0.78-0.99) 第4四分位 0.93 (0.83-1.05) 傾向性P値 = 0.23		

				調査 <u>方法</u> 研究	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						心疾患死亡 (heart disease mortality)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、心疾患死亡リスクが25%低かった。		

欧米食パターン

得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、心疾患死亡リ スクが12%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.03 (0.90-1.17) 第3四分位 0.88 (0.76-1.02) 第4四分位 0.88 (0.74-1.04) 傾向性P値 = 0.042

ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.77 (0.67-0.90) 第3四分位 0.78 (0.67-0.90) 第4四分位 0.75 (0.66-0.87) 傾向性P値 <0.001

伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による心疾患死亡リス クに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.91 (0.77-1.07) 第3四分位 0.97 (0.83-1.15) 第4四分位 0.88 (0.74-1.04) 傾向性P値 = 0.22

				調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>// </u> 研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
			<b>则且对</b> 条			脳血管疾患死亡 (cerebrovascular disease)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、 果も得点が低い群では、脳血管た。 ハザード比を1.00 (基準) 第1四分位 0.94 (0.80-1.11) 第1四分位 0.72 (0.61-0.85) 第4四分位 0.63 (0.53-0.75) 傾向性P値 (0.001) 欧米点の四分位 0.63 (0.53-0.75) 傾向性P値 (0.001) 欧米点の四分位 0.63 (0.53-0.75) 傾向性P値 (0.001) 欧米点の四分位 0.63 (0.73-0.95) 第1四分位 0.86 (0.73-0.996) 第1四分位 0.86 (0.73-0.996) 第3四分位 0.88 (0.73-1.07) 傾向性P値 0.06 伝統の四分けによるは見られなの 時によるは見られなの 第4四分位 0.88 (0.73-1.07) 傾向性P値 = 0.06 伝統の四分けによるは見られなの 時によるは見られなが 得点、いずによる は見いでを 第二十による は見いでは 第2四分位 0.91 (0.76-1.10) 第3四分位 0.72 (0.59-0.88) 第4四分位 0.92 (0.76-1.11) 傾向性P値 = 0.27		

# 食事パターンと糖尿病に関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

				調査方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
1	Mizoue Tetsuya, et al (2006)	福岡熊本県	自 情研者 47-59歳 (平均52.4 歳)、男 性、2,106 人	横断研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	自衛隊健康研究参加の男性2,106 人を対象に、39食品・飲料に基づき抽出された食事パターン DFSA食事パターンは、発酵乳製品、牛乳、菓子、パン、果物、野菜の高摂取と焼酎の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 8.5%)	耐糖能異常 (impaired fasting glucose, impaired glucose tolerance)と2 型糖尿病 75g糖負荷試 験	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、糖代謝異 常有病のオッズが49%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.80 (0.62-1.04) 第3四分位 0.71 (0.54-0.92) 第4四分位 0.51 (0.38-0.67) 傾向性P値 <0.0001	病院 年齢 職規の糖尿病 歴 BMI 喫煙状況 余暇 動量	食事パター 知機では を を を を を を を を を を を を を を を を を を を
						動物性食品パターンは、動物性食品(赤肉、鶏肉、魚以外の魚介類、加工肉、魚加工品)と揚げ物、焼き物の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7.9%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖代 謝異常有病率に差は見られなかっ た。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.15 (0.88-1.51) 第3四分位 0.89 (0.67-1.16) 第4四分位 0.97 (0.74-1.27) 傾向性P値=0.43		
						伝統食パターンは、日本で伝統的に摂取される食品(大豆製品、海藻類、漬物、緑茶)の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7.7%)		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による糖代 謝異常有病率に差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.14 (0.86-1.50) 第3四分位 1.40 (1.06-1.83) 第4四分位 1.20 (0.91-1.58) 傾向性P値=0.14		

				調査	調査項目				
				調宜 <u>方法</u>	<b>测</b> 互块日		和朱		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						Impaired fasting glucose	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、耐糖能異 常(IFG)有病のオッズが46%低かっ た。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.00(0.63-1.59) 第3四分位 0.94(0.59-1.50) 第4四分位 0.54(0.32-0.91) 傾向性P値=0.02		
							動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による耐糖 能異常(IFG)有病率に差は見られな かった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位1.00(基準) 第2四分位0.98(0.61-1.58) 第3四分位0.85(0.52-1.37) 第4四分位0.99(0.62-1.59) 傾向性P値=0.87		
							日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による耐糖 能異常(IFG)有病率に差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.98 (0.59-1.60) 第3四分位 1.28 (0.79-2.06) 第4四分位 0.90 (0.54-1.49) 傾向性P値=0.85		

				調査	調査項目		結果		
				方法					_
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 共変量の 調査結果(関連)	調整	キーワード
						Impaired glucose tolerance	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、耐糖能異 常(IGT)有病のオッズが50%低かっ た。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.70 (0.51-0.96) 第3四分位 0.62 (0.45-0.85) 第4四分位 0.50 (0.36-0.70) 傾向性P値 <0.0001		
							動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による耐糖 能異常(IGT)有病率に差は見られな かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.18 (0.86-1.63) 第3四分位 0.77 (0.55-1.08) 第4四分位 1.02 (0.74-1.41) 傾向性P値=0.59		
							日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、耐糖能異 常(IGT)有病のオッズが1.4倍高かっ た。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.25 (0.89-1.75) 第3四分位 1.50 (1.07-2.10) 第4四分位 1.39 (0.99-1.94)		

			調査 <u>方法</u>	調査項目		結果		
著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワー
					2型糖尿病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、2型糖尿病 有病のオッズが50%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.92 (0.54-1.55) 第3四分位 0.71 (0.41-1.22) 第4四分位 0.50 (0.28-0.91) 傾向性P値=0.01		
						動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による2型 糖尿病有病率に差は見られなかっ た。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.54 (0.87-2.70) 第3四分位 1.58 (0.91-2.75) 第4四分位 0.73 (0.38-1.40) 傾向性P値=0.33		
						日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による2型 糖尿病有病率に差は見られなかっ た。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位1.00(基準)		

第2四分位 1.03 (0.59-1.80) 第3四分位 1.27 (0.73-2.20) 第4四分位 0.96 (0.54-1.69)

傾向性P值=1.00

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 に利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
2	Nanri Akiko, et al (2008)	福福東岡岡区	九福トベン加750-74億人 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	横研究	食物類查 (FFQ)	九州大学福岡コホート研究のベースライン調査参加者男性3,243人、女性4,667人を対象に、49食品・飲料に基づき抽出された食事パターン健康食パターンは、野菜、果物、大豆製品、魚、ヨーグルトの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 16.8%)	ヘモグロビン A1c高値 (≧ 5.5%)	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による高へモグロビンA1c割合に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.86 (0.62-1.21) 第3五分位 0.75 (0.53-1.06) 第4五分位 1.11 (0.80-1.54) 第5五分位 0.84 (0.59-1.20) 傾向性P値=0.89 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.37 (1.00-1.89) 第3五分位 1.10 (0.80-1.53) 第4五分位 1.21 (0.87-1.67) 第5五分位 1.38 (1.00-1.91) 傾向性P値=0.18	年齢 BMI 喫煙状況 身体活動量 両親 歴	食事パー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
						高脂肪食パターンは、揚げ物、肉、加工肉、マヨネーズ、卵の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5.5%)		高脂肪食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による高へモグロビンA1c割合に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.86 (0.62-1.18) 第3五分位 1.08 (0.80-1.48) 第4五分位 0.76 (0.55-1.06) 第5五分位 0.74 (0.53-1.04) 傾向性P値=0.07 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.96 (0.71-1.30) 第3五分位 1.18 (0.88-1.58) 第4五分位 0.95 (0.70-1.30) 傾向性P値=0.93		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						魚介類食事パターンは、多様な魚 介類(貝類、塩蔵魚の内臓、ハラ コ、練り製品)の高摂取に特徴づけ られる。(説明率: 4.8%)		魚介類食事パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、女性では、得点による高へモグロビンA1c割合に差は見られなかったものの、男性では、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、高へモグロビンA1c割合が1.3倍高かった。 オッズ比(95%信頼区間): 男性第1五分位1.00(基準)第2五分位1.13(0.80-1.61)第3五分位1.31(0.92-1.84)第4五分位1.77(1.26-2.47)第5五分位1.34(0.95-1.89)傾向性P値=0.01女性第1五分位1.00(基準)第2五分位1.18(0.87-1.59)第3五分位1.13(0.84-1.54)第4五分位1.18(0.87-1.59)第3五分位1.13(0.84-1.54)第4五分位1.18(0.87-1.59)		

第5五分位 0.86 (0.63-1.18) 傾向性P値=0.40

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	が 研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						洋風朝食パターンは、パン、マーガリン、コーヒーの高摂取と米飯、みそ汁の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 3.4%)		洋風朝食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、高へモグ ロビンA1c割合が男性では40%、女性 では36%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.70 (0.51-0.97) 第3五分位 0.80 (0.58-1.09) 第4五分位 0.80 (0.59-1.10) 第5五分位 0.60 (0.43-0.84) 傾向性P値=0.02 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.13 (0.84-1.50) 第3五分位 1.24 (0.93-1.65) 第4五分位 1.03 (0.77-1.38) 第5五分位 0.64 (0.46-0.90) 傾向性P値=0.02		
3	Morimoto Akiko, et al (2012)	長野県	コホート研究参加者 40-69歳、 5,665人 (男性1,995 人、女性 3,670人)	前き究追期平10.3 向研 跡間均3	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	コホート研究参加者男性1,995人、 女性3,670人を対象に、16食品・飲料に基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、いも類、 海藻類、果物、大豆製品の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 16.2%)	糖尿下の10 上のの場合では 出の場合で に は は は は は は は は は は は は は は は は は は	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、糖尿病発症リスクが22%低かった。ハザード比(95%信頼区間)第1四分位 1.00(基準)第2四分位 0.90(0.72-1.21)第3四分位 0.83(0.64-1.08)第4四分位 0.78(0.61-0.95)傾向性P値 = 0.008	年性血空BMI を を を を を を を を を を を の の の の の の の の	食事パター ン 糖尿病発症 成年男女

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>//仏</u> 研究 デザ イン		テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
4	Nanri Akiko, et al (2013)	全国11保管	JPHC研究 参加者 45-74歳、 64,705人 (男性 27,816人、 女性36,889 人)	前き究追期5 向研 跡間	食物摄 取頻査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性27,816 人、女性36,889人を対象に、48食 品群に基づき、男女別に抽出され た食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、い も類、大豆製品、海藻類、きのこ 類、魚、緑茶の高摂取に特徴づけ られる。	2型糖尿病発 症 (自己申告)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖尿 病発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.14 (0.92-1.41) 第3四分位 0.93 (0.75-1.17) 第4四分位 0.93 (0.74-1.16) 傾向性P値 = 0.25 女性 第1四分位 0.94 (0.74-1.21) 第3四分位 0.94 (0.74-1.21) 第3四分位 0.96 (0.74-1.23) 第4四分位 0.90 (0.69-1.16) 傾向性P値 = 0.45	年齢 地域 機尿病家 糖 線 中 展 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	食事パター ン 2型糖尿病 発症 成年男女
						欧米食パターンは、肉、加工肉、パン、ドレッシング、乳製品、魚、コーヒー、紅茶、ソースの高摂取に特徴づけられる。		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖尿 病発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.05 (0.84-1.31) 第3四分位 1.26 (1.01-1.57) 第4四分位 1.15 (0.90-1.46) 傾向性P値 = 0.12 女性 第1四分位 0.93 (0.72-1.18) 第3四分位 0.99 (0.77-1.28) 第4四分位 0.81 (0.61-1.08) 傾向性P値 = 0.26		

				調査 <u>方法</u> 研究		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						伝統食パターンは、魚、漬物、魚以外の魚介類、みそ汁、米飯の高摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖尿 病発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.96 (0.75-1.23) 第3四分位 0.97 (0.75-1.27) 第4四分位 0.97 (0.74-1.27) 傾向性P値 = 0.88 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.92 (0.71-1.19) 第3四分位 0.89 (0.68-1.16) 第4四分位 0.87 (0.66-1.15) 傾向性P値 = 0.32		

				調査		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガタ</u> 研究 デザ イン		テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
5	Arisawa Kokichi, et al (2014)	徳島県	徳島県に おけるJ- MICCスタ ディを参議。 513人(男 性377人、 女性136 人)	横断究	食物摂 取頻度 調香 (FFQ)	J-MICCスタディ参加者513人を対象に、46食品に基づき抽出された食事パターン健康食パターンは、野菜、果物、きのこ類の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 17%)	空腹時血糖値 (NCEP ATP III 基準: 100mg/dl以 上) 空腹時血糖値 (JASSO 基 準:110mg/dl 以上)	健康食パターン 得点による空腹時高血糖割合に差は 見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.84(0.66-1.05) P=0.13 JASSO 基準 0.89(0.61-1.24) P=0.51	年齢 性別 総エネルギー摂 取量 身体活動量 喫煙状況 飲酒状況	食事パター ン 空腹時血糖 高値 成年男女
						高脂肪/欧米食パターンは肉、肉製品、マヨネーズ、揚げ物、洋菓子の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7%)		高脂肪/欧米食パターン 得点による空腹時高血糖割合に差は 見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP II 基準 0.84(0.67-1.06)P=0.15 JASSO 基準 0.85(0.60-1.19)P=0.35		
						パン・乳製品パターンは、パン、マーガリン、牛乳、ヨーグルトの高 摂取に特徴づけられる。(説明率: 5%)		パン・乳製品パターン 得点が1SD増加するごとに、NCEP ATPIIIの定義による空腹時高血糖割 合は20%低下した。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP II 基準 0.80(0.65-1.00)P=0.04 JASSO 基準 0.77(0.55-1.05)P=0.10		
						魚介類パターンは、いか、えび、かに、たこ、貝類、魚卵の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 4%)		魚介類パターン 得点による空腹時高血糖割合に差は 見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 1.02(0.83-1.25)P=0.87 JASSO 基準 1.19(0.91-1.54)P=0.20		

# 食事パターンとメタボリックシンドロームに関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

				調査 方法		調査項目		結果		
者 号	著者 (発行年)	調査 国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調 整	キーワード
1	近藤 香奈 恵 (2007)	山県岡形鶴市	国スデ参平58.0 491かの 491か 491か 491か 491か 491か 491か 491か 491か	横研究	食物頻査(FFQ)	食事の多様性得点 主食は3つの食品群、副菜は5つの食品 群、主菜は5つの食品群、牛乳・乳製品は 2つの食品群、果物は1つの食品群とし、 0.5サービング以上摂取している食品群 の数をカウントし、下記の式で各料理区 分の多様性得点を算出した。 各料理区分多様性得点=各料理区分の うち0.5サービング以上摂取している食品 群数/各料理区分の食品群数×2点 合計得点は0~10点で、得点が高いほど 食事の多様性がある。	メタボリックシンドロー ム (必須項目: 男性90cm 以上: 女性90cm 以上: のうち20: 1 関連な性90cm 以上: のうち20: 1 関連ないでは、1 関連ないでは、1 はいかには、1 はいいた。1 はいいた。1 はいいた。1 は	食事の多様性得点の平均値士標準誤差 男性 非該当群 5.77±0.40 一部該当 5.14±0.24 メタボ群 5.20±0.22 女性 非該当群 5.40±0.12 一部該当 5.48±0.07 メタボ群 5.69±0.12 男女ともに3群間で有意差みられず	年齢 BMI 総エネル ギー摂取量	食事の多 様性と メタボ 成年 男女

		_		調査 方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査 国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>ガム</u> 研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調 整	
2	Arisawa Kokichi, et al (2014)	徳県	徳島県に おけるJ- MICCスタ ディの参議 35-70歳、 513人(男 女性136 人)	横研究	J-MICCスタディ参加者513人を対象に、 46食品に基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、きのこ類 の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 17%)	メタボリックシンドローム(NCEP ATP III 基準) (以下のうち、3つ以上の項目に該当: 腹囲90cm以上(男性)、80cm以上(女性);トリグリセリド150mg/dl; HDLコレステロール40mg/dl未満(男性)、50mg/dl未満(女性);収縮期血圧130mmHg以上かつ/または拡張期血圧85mmHg以上、または治療中;空腹時血糖100mg/dl以上)	健康食パターン 得点によるメタボ割合に差は見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%CI) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.77(0.56-1.03)P=0.07 JASSO 基準 0.79(0.53-1.12)P=0.20	年齢別 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	食事パター ン メタボ Homeostasi s Model of Assessmen t- InsulinResis tance (HOMA- IR) 成年男女
					高脂肪/欧米食パターンは肉、肉製品、マヨネーズ、揚げ物、洋菓子の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7%)	メタボリックシンドローム(JASSO 基準) (必須項目:腹囲:男性 85cm以上、女性90cm 以上;以下のうち2つ 以上の項目に該当:脂 質異常症(トリグリセリド150mg/dlかつ/まール 40mg/dl未満)、高血圧 (収縮期血圧130mmHg 以上かつ/または拡張 期血圧85mmHg以上、または治療中)、高血 糖(110mg/dl以上)	高脂肪/欧米食パターン 得点によるメタボ割合に差は見られなかった。 得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%CI) NCEP ATP Ⅲ 基準 1.08(0.83-1.42)P=0.56 JASSO 基準 1.31(0.94-1.80)P=0.11		
					パン・乳製品パターンは、パン、マーガリン、牛乳、ヨーグルトの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5%)		パン・乳製品パターン 得点によるメタボ割合に差は見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%CI) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.89(0.69-1.14)P=0.34 JASSO 基準		

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査 国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調 整	キーワード
						魚介類パターンは、いか、えび、かに、たこ、貝類、魚卵の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 4%)		魚介類パターン 得点によるメタボ割合に差は見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%CI) NCEP ATP Ⅲ 基準 1.14(0.91-1.44)P=0.24 JASSO 基準 1.19(0.91-1.53)P=0.20		
3	Kuroki Yukari, et al (2017)	奈県	エレクトロ ニクス工場 男性従業 員 (25-62歳、 503人)	横研究	BDHQ	AI-84  American Heart Association Diet and Lifestyle Recommendation (AHA-DLR) 10項目についての遵守度から算出(0-84点)。  1. 果物と野菜の豊富な食事  2. 多様な果物と野菜の摂取  3. 全粒穀類を選ぶ  4. 脂の多い魚の摂取  5. 総脂肪の適量摂取  6. 飽和脂肪酸の摂取を控える  7. 食事コレステロールの減少  8. 加糖の飲料及び食品摂取を最小限にする  9. 低塩・無塩食品の摂取  10. アルコールの適量飲酒	メタボリックシンドローム (以下のうち、3つ以上 の項目に該当: 腹囲 85cm以上; トリグリセリ ド150mg/dlまたは治療 中; HDLコレステロール 40mg/dl未満; 収縮期 血圧130mmHg以上ま たは拡張期血圧 85mmHg以上または降 圧剤の使用; 空腹時血 糖110mg/dl以上)	AI-84が10点増加するごとにメタボのオッズは22%低下した。 AI-84の平均値±標準偏差メタボなし 28.9±9.2メタボあり 27.1±9.1 P=0.04 ※調整なし AI-84三分位ごとのメタボオッズ比(95%CI) 第3三分位 基準第2三分位 1.29(0.78-2.13) 第1三分位 2.00(1.21-3.32) ※調整なし AI-84が10点増加するごとのメタボのオッズ比(95%CI) 0.78(0.61-0.99) P=0.04	年齢関係を受ける。	AI-84 メタボ 食事バラン ス 成年男女

# 食事パターンと肥満に関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

				調査 方法		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国• 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
1	Okubo H, et al (2008)	33都道府	学専の18-204   養短学入議 23,760   大・校生、60	横研究	DHQ	栄養系学校の女子新入生3,760人を対象に、30食品群に基づき抽出された食事パターンは、緑色野菜、淡色野菜、きのこ類、海藻類、いも類、魚介類、大豆製品、加工魚、果物、塩蔵野菜の高摂取に特徴づけられる。(説明率:10.5%)  伝統食パターンは、米飯、みそ汁、大豆製品の高摂取に特徴づけられる。(説明率:6.9%)	肥満 BMI25kg/m2以上 (日本肥満学会)	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、 得点による肥満割合に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.63 (0.42-0.96) 第3五分位 0.76 (0.51-1.13) 第4五分位 0.76 (0.51-1.14) 第5五分位 0.57 (0.37-0.87) 傾向性P値 = 0.05 伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比と等算出した結果、最ものエケが低い群に比べ最高い群では、肥満割合が1.8倍高かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.89 (0.57-1.40) 第3五分位 1.41 (0.92-2.16) 第4五分位 1.04 (0.67-1.63) 第5五分位 1.77 (1.17-2.67) 傾向性P値 <0.01	居居現サ用身ル過量過事食食総摂住住在プー体 去 去変べ意エ取区の煙ン 動 月 間 さ ギリ リー の の の の の の の の の の の の の の の の の の	食事パター   

				調査 方法		調査項目         結果		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	<u>研究</u> デザ イン		テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						欧米食パターンは、肉、油脂類、調味料、加工肉、卵の高摂取に特徴づけられる。 (説明率: 6.1%)		欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、 最も得点が低い群に比べ最も 高い群では、肥満割合が1.6倍 高かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.29 (0.82-2.02) 第3五分位 1.24 (0.78-1.96) 第4五分位 1.48 (0.95-2.30) 第5五分位 1.56 (1.01-2.40) 傾向性P値 = 0.04		
						コーヒー・乳製品パターンは、甘い食品、コーヒー、乳製品の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5.4%)		コーヒー・乳製品パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、 得点による肥満割合に差は見られなかった。オッズ比(95%信頼区間) 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.86(0.58-1.28) 第3五分位 0.62(0.40-0.95) 第4五分位 0.69(0.46-1.04) 第5五分位 0.82(0.54-1.23) 傾向性P値 = 0.16		
2	Arisawa Kokichi, et al (2014)	徳島県	徳島県に おけるJ- MICCスタ ディ参の歳、 513人(男 性377人、 女性136 人)	横断研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	J-MICCスタディ参加者513人を対象に、 46食品に基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、きのこ類 の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 17%)	腹部肥満 NCEP ATP Ⅲ 基準 腹囲: 男性90cm以上、 女性80cm以上 JASSO 基準 腹囲: 男性85cm以上、 女性90cm以上	健康食パターン 得点による肥満割合に差は見られなかった。 主成分得点が1SD増加するご とのメタボのオッズ比(95%信頼 区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.85(0.68-1.05)P=0.13 JASSO 基準 0.80(0.63-1.01)P=0.06	年齢 性別 総エネルギー 摂取量 身体活動量 喫煙状況 飲酒状況	食事パター ン 腹部肥満 成年男女

				調査	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
					高脂肪/欧米食パターンは肉、肉製品、マヨネーズ、揚げ物、洋菓子の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 7%)		高脂肪/欧米食パターン NCEP ATPⅢの定義では、得点による肥満割合に差は見られなかったものの、JASSOによる定義では、得点が1SD増加するごとに肥満のオッズが1.3倍高かった。 主成分得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準1.20(0.97-1.49)P=0.10 JASSO 基準1.29(1.03-1.61)P=0.03		
					パン・乳製品パターンは、パン、マーガリン、牛乳、ヨーグルトの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5%)		パン・乳製品パターン JASSOの定義では、得点による肥満割合に差は見られなかったものの、NCEP ATPIIIによる定義では、得点が1SD増加するごとに肥満のオッズが19%低下した。 主成分得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP III 基準0.81(0.66-1.00)P=0.04 JASSO 基準0.82(0.66-1.01)P=0.07		
					魚介類パターンは、いか、えび、かに、たこ、貝類、魚卵の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 4%)		魚介類パターン 得点による肥満割合に差は見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとのメタボのオッズ比(95%信頼 区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 1.03(0.85-1.25)P=0.75 JASSO 基準 1.10(0.90-1.35)P=0.36		

				調査 <u>方法</u>		調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関す る調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
3	Kanauchi Masao, et al (2016)	日本	8つの職域 の労学歳、 1,048人(男性645人、女性403人)	横研究	BDHQ	jMD score  Mditerranean Diet (MD) pyramid を基に、 13項目についての遵守度から算出(0-13点)。 1. 穀類 2. 野菜 3. 果物 4. 豆類 5. 魚 6. 乳製品 7. イモ類 8. 卵類 9. 鶏肉 10. 赤肉・加工肉 11. 菓子 12. アルコール類 13. MUFAとSFAの比	m满·過体重 BMI25kg/m2以上	得点の三分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、肥満割合が50%低かった。オッズ比(95%信頼区間)低 1.00 (基準)中 0.87 (0.63-1.20)高 0.50 (0.30-0.85)傾向性P値 = 0.02	年齢 性別 関煙活動量 飲酒上 飲酒 食 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	jMD 満種学 働女 動女